

令和7年度 女性技術者の活躍・定着推進に向けた会議について

- 1 日時：令和7年9月30日（火）14：00～15：30
- 2 会場：山梨建設会館 4階 会議室
- 3 議題：
 - （1）令和7年度やまなし建設産業担い手確保・育成アクションプランの実施状況について
 - （2）講演「山梨県職員×建設業×女性
多くの人に支えられ私が歩んできた道」
石川県能登町建設水道課 主査 築野淳子氏（けんせつ小町甲斐）

〔講演の概要〕

- ・ 講師は、石川県能登町へ派遣された県の女性技術職員である築野淳子氏。
- ・ 自らのキャリアパスを振り返りながら、働き方に着目して詳細に解説。
- ・ 講演の内容
 - ⇒常に気にかけてくれる女性の先輩職員が周りに多くいた。
 - ⇒県の「女性技師会」には、活発で面倒見のいい女性先輩職員が多数いた。
 - ⇒「けんせつ小町甲斐」は、互いの悩み、楽しみを共有できる貴重な場。
- ・ 講演の結び
 - ⇒「女性だから」と手加減されなかった。
難易度の高い業務や災害時の配備、苦情対応、当時の自身にとって膨大な業務量や長時間勤務、草刈りや力仕事まで、同世代の男性職員と比較しても遜色なく業務を担当させてもらった。
 - ⇒でもきっと「女性だから」すごく配慮してもらった。
上司や同僚は、身近に女性職員がいる経験が少ない人も多く扱い方に戸惑ったと推察。
自身の知らないところで、身体的・精神的にたくさんの配慮をしてもらっていたと思う。

〔会議構成員からの意見・講師との問答（フリートークを含む）〕

構成員）女性だからといって手加減されたくないという思いと、手加減してくれてありがたいという思いが共存していることは、リアリティがあり共感できる。

構成員）最近はワークライフバランス重視で残業抑制の傾向だが、どう考えるか。

講 師）各自の生活環境などにより残業ができる人とできない人がいるが、できる人はやってもいいのかもしれない。その経験が、後のワークライフバランスを保つことに役立つのかもしれない。

構成員）とても前向きでチャレンジ精神があり、素晴らしいと思う。

講 師）講演では前向きに表現したが、実際はかなりキツイ時期もあった。

構成員）キャリアアップしているところに好感が持てる。

講 師）これまでは単身だからできたという面もあった。単身でできることはもうやったので、次のステップに行きたいと思っている。

〔考察〕

- ・ロールモデルになったり、面倒を見たりしてくれる先輩女性職員がいることは有効。
- ・区別しないことと配慮すること、残業実施の有無について、いずれもバランスが肝要。

以上